



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュ - スレタ - No.110

2005年12月

主の僕

コルネリオ会会長 今市宗雄

自衛官の当時に救われた私にとりましては、主が今なにを期待されているのか、祈りの日々が続きます。

私は、60歳を迎え里山での教会生活を決意して、霞ヶ浦と利根川下流域間の田園に妻と移り住みました。2年前からは、350世帯の新興住宅地における初代自治会会長としてキリスト者の証の場との自覚のもとに専念して来ました。

ところが同じ会長でも、今回は違うなと思っています。それは、会員がみな信徒だからです。私達は、“ふたりでも3人でも、わたしの名において集まる所には、私もその中にいるからです。”(マタイ 18:20)との約束を頂いているからです。私達が聖霊の導きに心を合わせて一歩ずつ踏み出す時に、主は喜ばれるものと確信しています。

人を押しのける者との名のヤコブは、主に3度会い

人を祝福する器とのイスラエルへと用いられて行きました。その1度目は臨在信仰の出発点となったベテルでの出来事(創 28:10-18)、2度目は神が彼の中に生きて居て下さっているとの確信を得た格闘の場面(創 32:22-31)、最後は自己中心を悔い改め祭壇を築くところ(創 35:1-10)です。

今、月例会では、会員名簿の整理や横田基地 MCF との Interaction が始められています。

また祈りの課題としましては、現役自衛隊員へ福音が伝わりますように、自衛隊員関係のキリスト者がコルネリオ会に入会しますように等を掲げています。どうか、皆様も共にお祈り下さい。

さらに、毎第2土曜日 1400 から市ヶ谷会館本館 3F 会議室で開催しています“学び会”にも是非ご参加くださるよう、心からお待ち申し上げています。

キリストの愛の中で5日間の恵み

横浜山手バプテスト教会牧師 金学根

この度は、アジア軍人クリスチャン聖書研修会(2005 Interaction East Asia)がコルネリオ会主催により日本で開催されました。本研修会は、8月12日から16日まで5日間、品川高輪東武ホテルと一部の会場として、高輪カトリック教会で行われました。

8月15日は、日本では敗戦記念日となります。このような8月に日本でアジア諸国の軍人クリスチャンが集まって、キリストの中で互いに聖書を学び、互いに祈り合い、互いに交わることは今まで日本の中では例がなかったのではないかと思います。しかも、8月14日の主日礼拝では、参加者31名の皆さんが蓮根バプテ

スト教会で出席者の皆さんと共に賛美し、祈って礼拝を捧げました。このようなことは、歴史的なことであり、本当に感動的なことでありました。日本の中では、かつての戦争問題と現在の憲法9条の問題や自衛隊に関する問題など、平和に対する様々な考え方や課題をもっています。また、教会の中でも教派によって、教会によって、牧師や信徒によっては、様々な考え方があります。これらのようなことがある故なのか、多くの教会やクリスチャン、牧師までもが自衛隊員にキリストの福音を伝えることにアレルギーを持っているようです。福音は誰にでも、どんなところにも伝えなけ

ればなりません。罪があればあるほどキリストの福音は必要となります。罪のないところには、福音は必要としません。罪があるから、罪人であるからこそ福音は必要であります。健康な人には医者が必要ありません。医者は、患者や病気をもっている人に必要となります。そのように、イエス様も神でありながら、神の身分を捨てて人間となられ、私たちの罪のために十字架で死んでくださったのであります。(フィリピ書2章6-8節)

神様が私たちを救うために、私たちを愛しあいの屈辱の十字架で死んでくださり、私たちを赦して下さったのであります。何故、私たちは同じ民族で、同じ国民なのに互いに愛し合い、互いに赦しあうことができないのだろうか。神様も赦して下さったのに、私たちが裁くことができるのだろうか。

私たちは私たちの基準で、この人には福音を伝えても良い、この人には福音を伝えてはいけないなどと制限することはできません。そのような資格は、神様から与えられていません。キリストの救いが、すべての人々に与えられたように、私たちはすべての人々にキリストの十字架の贖いと愛の福音を伝えて行かねばなりません。

使徒言行録10章の中で、あの有名なコルネリウスと言う異邦人であるイタリア隊の百人隊長の話があります。ペテロが祈ってお腹が空いた時に、神はペテロに現れ、あらゆる動物を与えられました。そして「ペテロよ食べなさい」と語った。しかし、ペテロは言った。

「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は、何一つ食べたことはありません。」と答えた。しかし、神様は、ペテロに言った。「神が清めた物を、清くないなどとあなたは言うてはならない。」と三回もペテロに現れたのであります。このお話は、当時ユダヤ人が異邦人との交わりや親しくなることさえ律法で禁じられている中で、神様によって異邦人伝道が行われたことをよく表すお話であります。

私たちはいかなる場合でも人を差別したり、人を裁いてはなりません。私たちはどんな人であってもキリストの十字架の愛によって赦され救われるようキリストの愛を伝えていかなければなりません。

日本の中で福音を伝えることは、いかに難しく困難

なことでしょうか。このような状況の中で、さらに私たちが福音の対象を制限したり、規制することは神様も決して望んではおられないと信じます。

これからも、日本の教会が、また、牧師や信徒の皆さんが誰にでもどんな人にもキリストの福音を伝えようと励んで下されば、自衛隊員が日本の社会の中でどんな立場に置かれて居ようが福音対象外にすることは決してないと信じます。それを神様も切に願っておられるのではないのでしょうか。

私たちは、神様の福音宣教を理解してキリストの救いの業が広がるよう主に用いられなければなりません。神様の福音宣教を、私たちが自分の都合で制限したり、使命を担わなければ日本のリバイバルは中々訪れることはできないのではないのでしょうか。福音を伝えるわたしたちが、主の福音宣教に妨げになってはなりません。私たちの大事な働きが無駄になってはいけないのであります。

イエス様が復活し、天に昇られた時、最後に人々に、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受け、エルサレムばかりではなく、ユダヤサマリヤの全土、また、地の果てに至るまでわたしの証人となる」と話されました。(使徒1:8)

神様の御心は、すべての人々が福音によって救われることでもあります。すべての人々が、キリストの十字架の贖いによって救われることが神の御心であります。私たちは、この神の福音宣教のために用いられるべきであります。私たちの働きによって、日本の多くの人々が救われるよう、また、私たちが愛する大事な家族や兄弟姉妹が救われるよう、日本の民族の救いのために、私たちのすべての働きが優先されなければいけないのではないのでしょうか。

このような状況の中で今回の Interaction 軍人クリスチャン聖書研修会は神様の恵みであり、日本宣教に大きな意味があると感じました。

実際に、日本の教会の中で、キリストの十字架の愛の中で、共に賛美し、共に祈ることができましたことは、大きな神様の祝福以外になにもものでもないことを確信し神に感謝しています。

韓国から参加されたある方は、わたしにこのように話しました。先生、実は、わたしは日本に来る前はあ

まり日本に対してよい感情を持っていませんでした。ただ、クリスチャンとの交わりだから一緒に交わろうと思っていただけです。しかし、皆さんと共に交わり祈りを通してわたしの考えは大きく変わりました。わたしは流れる涙を止めることはできなかつた。わたしは神様に悔い改めて祈りました。日本に来られたことを本当に感謝しています。本当に素晴らしい大会でしたと言ってくれました。彼は、韓国に帰ってもわたしとのメールの中でこれからも、日本のために祈っていきますと言ってくれました。

たとえ、私たちは国が違って、環境が違って、考えが違って、どんな状況の中でも、キリストの愛の中で理念を越え、互いに赦し、互いに愛し合うことができます。このようなことを大いに教えられ、体験できる大会となりました。このような素晴らしい集會を持たされることができたのは、多くの諸教会の祈り

と理解とご協力があったからこそ実現できたことであると思っています。もう一度、多くの教会や先生、また、信徒の皆さんに心から感謝しています。

主の恵みと聖霊の助けがいつも豊かにありますように祈ります。

ハレルヤ!



『2005年インターラクシオン in 東京』が終って

コルネリオ会会員 中野久永

ハレルヤ! 主イエス・キリストの御名を心から賛美いたします。今回のインターラクシオンは、初めてアジアで教官もアジア出身を含む企画で行われました。最初から最後まで今大会の中心はやはりキリストであると確信いたしました。振り返って考えて見ますと2001年に韓国でインターラクシオンが行われ、私もコルネリオ会会員として初めて参加することができました。その時は、アジア諸国の軍人キリスト者との真の交わりを通して将来も変わらないクリスチャンの友人ができたことが私にとっての大きな成果でもあり宝物となりました。そして翌2002年8月15日~17日までAMCFアジア大会をグランドヒル市ヶ谷で開催することができました。神様の恩寵により本当に素晴らしい大会でした。その大会終了直後に各国代表者及び米国ACCCTSそしてコルネリオ会役員が大会事務局の片隅に集まり、将来計画についてキリストに御名によって本当に熱心に祈ったことは決して忘れることができません。そこでリー將軍(当時AMCF東アジア会長、現在AMCF世界会長)が会議議長として各国の意見を取りまとめました。その時に我がコルネリオ会代表として石川先生が準備しておいた過去からのインターラクシオン、アジア大会、世界大会の実施場所等について説明があったことをよく覚

えています。そこで日本は、2005年夏に日本でインターラクシオンの計画を提案いたしました。私は、その会議通訳の傍ら、神様が全てを導いて下さると心で信じ、各国代表が手と手をつないで祈りました。その瞬間から既に主の聖霊が私達一人一人を動かし、今回、東京でのインターラクシオンを導いて下さったと思います。もちろんこの間の3年間には、世界情勢(テロとの戦い)、国内外の大地震の影響、コルネリオ会会員でも人員の変更やその家族の心配事など数えればきりがなほど状況は刻々と変化してきました。特記すべきことは、AMCF世界大会がアジアで行われたことです。私は全ては神様が導き、一人一人を愛してくれていることを信じています。

今回の東京でのインターラクシオンへの参加は、私にとりまして直前まで参加が確定できませんでしたが全てを主に委ねました。今まで関東で生まれ育ち勤務地域も同様でしたが2004年8月から沖縄での勤務となり、AMCF世界大会は、参加ができなくなりました。沖縄での勤務は、在沖米軍との連絡・調整業務となりかなり複雑広範囲な分野の知識と日米関係という視野から物事を考えていけないといけなわけです。その中でも、キリスト者としての信仰を保持し、米軍人の中にクリスチャンとの交わり

を通じて、お互いに励まし合ってきました。沖縄から現役海兵隊幹部のインターアクションへの参加は、今後のAMCF及びコルネリオ会にとりまして歴史的にみましても初めてであり、今後の展望に大きな第一歩を踏み出すことになりました。韓国、台湾、インドネシア、日本、米国、在日米軍（陸軍、海兵隊、空軍）のOB、現役、大使館武官等、キリスト教関係メディアの方も参加して頂きました。感謝ですね。聖書の学び、賛美、交わり、日本文化紹介等を含めましてプログラムの一つ一つが神に祝福され、恵まれていました。今回のインターアクションを通じ、私は特に現場を第1主義としてこの自分の住んでいる沖縄を学び、沖縄を愛し、共に働く同僚、そして今回特に同室となったトッド・フェリー少佐（海軍士官学校卒海兵隊パイロット）との出会いが私の自衛隊としてのキリスト者のあり方を更に成長して頂いたと感謝しています。東京から沖縄に戻り、彼と再会し、現在では彼が参加している毎週土曜早朝0600からの海兵隊基地内バイブルスタディーにも参加させて頂いています。この時間帯は特に家族を持つ者にとっては、案外時間を取りやすいのではないのでしょうか。しかしその為には、私は自宅を少なくとも5時に起きて高速道路を運転し海兵隊基地に着くようにしなければなりません。少し大変かなと最初は思っていたのですが今では、主を賛美し、軍人キリスト者との交わり、職場でのキリスト者としての考え等多くの収穫を得て毎週「ハレルヤ！」歌いつつ帰ってきます。また先日も私達家族で出席させて頂いている豊見城バプテスト教会の上里牧師先生から先生がカナダ・米国へ研修旅行する為に日曜礼拝の説教を依頼されました。約1ヶ月間祈り、神様から与えられたみことば（ルカ福音書第5章）を教会員と共に分かち合うことができました。このように神様は、全て時にかなって美しいと言われましたように私が両親の元に生まれ、育ち、自衛隊に入隊し、クリスチャンとなり、ある時点でコルネリオ会に出会い、こうしてキリストの兄弟姉妹と互いに励まし合って人生を歩んでいます。もちろん全てがバラ色ではありません。特に私は今、カウンセリングを通して自殺防止プログラムを学んでいます。どうかこの為に祈って頂きたいと思います。ここまで読んで頂き感謝します。今後ともコルネリオ会への皆様のお祈り、ご支援に対し心から御礼を致します。皆様と共に神様を畏れ、心から真の礼拝を主に捧げようではありませんか。「主を恐れること

はその宝である」イザヤ書第33章6節

献金感謝（2005.1.7～2005.11.30）

今回も多くの愛する兄弟姉妹から尊い献金をいただきました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。（敬称略）

足立順二郎、熱海光雄、石川信隆、伊藤忠臣、今井健次、今市宗雄、圓林栄喜・さゆり、加瀬信吾、韓国MEAK、蔵谷三郎、倉松功、後藤孝良、森祐理、繁田篤良・春代、新松戸幸谷教会、滝口徹太郎、武内哲史、武宮啓夫、中野久永・しのぶ、西満、桧原菜都子、広田具之、松井光江、宮岡修二、山下和雄、矢田部稔・和子、吉田好里・美枝子、吉田靖、中野 秀智、Lemons、加瀬典文、Rick、伊藤忠臣、みことば新聞、USOCF、台湾OCF、韓国アドミラル

祈りの課題

- 1 防大聖研のためにお祈りください。
- 2 イラクをはじめ、国外に派遣されている自衛隊員の働きと安全のためにお祈りください。
- 3 コルネリオ会会員の信仰が守られ、それぞれの職場で主の御名が崇められる働きができるようにお祈りください。
- 4 山本浩兄の奥様の山本由美姉が11月13日（日）に洗礼を受けられました。由美姉の信仰のスタートが祝されますようお祈り下さい。

今回は、新会長の挨拶と2005 東アジア軍人クリスチャン研修会(2005Interaction)参加者の声を掲載しました。紙面の都合上「戦争について考える」はお休みさせて頂きました。次回から掲載を再開します。

今年1年の歩みが神様によって祝された事を感謝します。

良いクリスマスと新年をお迎え下さい。

（編集子）

コルネリオ会（JMCF）
（防衛関係キリスト者の会）
コルネリオ会広報室
〒895-0041 鹿児島県薩摩川内市隈之城町 215-4-2-24
電子メール:enrin@m9.dion.ne.jp
郵便振込口座 00130-3-87577 コルネリオ会
コルネリオ会ホームページ：
<http://www.geocities.jp/samuell1/index.html>